

氏名	平井成幸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3067号
学位授与の日付	平成8年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	先天股脱保存療法後の造影所見 —特に前方関節唇と股関節成長の関連について—
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 村上 宅郎 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

当科では、先天性股関節脱臼（以下先天股脱）の保存的療法中なんらかの異常を認める症例に股関節2方向造影（以下2方向造影）を施行し、その後の治療法決定に役立てている。本研究では、保存的療法例の造影所見における関節唇の状態と股関節成長の関連について長期経過観察から検討した。また、観血的治療を加えた症例の術中所見と2方向造影所見とを比較した。

対象は保存的療法後10年以上経過観察した27例32股と観血的治療を行った14例15股である。2方向造影分類は藤井の分類に従い、最終調査時評価にはSeverinのX線判定基準を用いた。

保存的療法例で造影所見がTypeA—1（前方および上方関節唇の正常なもの）では18股（56.3%）が最終調査時全てSeverin Iであった。しかし、残りのTypeB（前方関節唇の先端が鈍なもの）、C（前方関節唇の内反や変形による不整なもの）では最終調査時Severin Iは認められなかった。また、観血的治療を受けた14例はTypeBとCで手術所見は全例手術時臼底に介在物を認めた。前方関節唇の2方向造影所見と手術所見では15股中13股で一致していた。

以上により、今までの前後像では問題ないとされる例でも側面像で問題がある例がある。本研究によりTypeA—1は経過観察のみで良好な結果がえられ、他のTypeB、Cは手術適応となる。従って、先天股脱の治療上2方向造影は有用な検査である。

論文審査結果の要旨

本研究は先天性股関節脱臼の保存的療法後10年以上経過観察した27例32股と観血的治療を行った14例15股についてその2方向造影所見における関節唇の状態と股関節発育の関連性を検討し、さらに術前所見と術中所見を比較検討した臨床的ならびにX線学的研究である。従来十分解明されていなかった保存的整復術後の遺残性亜脱臼に対する手術適応決定における2方向造影法の有用性について重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。